

令和 2 年 9 月 15 日現在

機関番号：28001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02372

研究課題名(和文)音楽表現を養う総合的な教育方法と琉球楽器、西洋楽器による創作

研究課題名(英文)The general educational method of the training for the musical expression and Ryukyu and westernized instruments

研究代表者

近藤 春恵 (Kondoh, Harue)

沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授

研究者番号：50316204

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：沖縄独自の琉球古典音楽は、その実技教育の独自性と工工四と呼ばれる独自の記譜法を持っている。一方では、単一のジャンルにとどまらず、異文化圏の音楽のコラボレーションは一般的である。

このような状況の中で、同音域の西洋弦楽器であるヴァイオリンと沖縄古典音楽の三線を中心とした作品を、それぞれの歴史の中に位置づけて、この二つの楽器による作品を研究し、双方の音楽文化を俯瞰する研究を録音物(CDブック)としてのアルバムを作成した。そして、三線、弦楽器を学ぶ若い学習者の為のアンサンブル作品を作曲し公開発表した。また、琉球古典の名曲を独自の楽譜である工工四から五線譜に翻案し冊子をまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

全国で唯一の専攻である琉球古典音楽専攻の若い学生たちが、西洋楽器との接点と歴史的意義を俯瞰することで、ジャンルを超えた合奏作品として、演奏と研究双方での可能性を見出すための一助となる創作作品と録音物として仕上げる事が出来た。

また、西洋音楽の分野からは、今や特殊な技法というよりも一般的になった現代技法などの学習として、弦楽の特殊奏法などを組み込んだ二重奏とアンサンブル作品の多様性を広く世に問う機会となった。

研究成果の概要(英文)：Okinawa's Ryukyu classical music has the uniqueness of their practical educational skill and their own notation called "Kun-kun-shi". On the other hand, collaboration of music in different cultures, not just a single genre, has become common.

Under such circumstances, a works on the violin as the westernized string instrument and sanshin of Okinawa classical music, which are string instruments of the same range were positioned in each history. So we created an album as a recording (CD booklet) with a research that looks through the music culture of both, also composed and presented ensemble works for young learners studying sanshin and string instruments. In addition, the original notation "Kun-kun-shi" of the Ryukyu classical masterpieces were translated to the pentagram music sheet and compiled as a booklet.

研究分野：作曲理論

キーワード：琉球楽器 弦楽器 工工四 現代音楽

1. 研究開始当初の背景

(1) 1990年沖縄県立芸術大学に音楽学部琉球芸能専攻(当初は邦楽専攻の名称)が設置されて以来、洋楽のみならず琉球芸能の若手演奏家の養成が図られており、その音楽は日本から世界へと広まってきていた。一方、次世代の担い手となる研究者・教育者は、新たな創作を生み出すべく、琉球芸能の伝統的記譜である「工工四」記譜から五線譜への併用を目指し、西洋音楽の音楽基礎能力である読譜能力の開発に的を絞り取り組んでいる。研究代表者近藤春恵は、平成24~26年度JSPS科研費を獲得し「琉球古典音楽の実技教育における音楽基礎能力の養成法」を研究している。(JSPS24520171)

(2) 研究分担者岡田光樹と山内昌也は演奏者の立場から、西洋楽器、琉球楽器の異文化圏のアンサンブルによる可能性を2013年より研究し公演を継続してきている。

(3) そこから見出された次なる課題として、新たな創作作品と演奏技法の開拓、それに直結した学習者への練習曲の創作とメソッドが求められる。

2. 研究の目的

(1) 全国で唯一の専攻である琉球古典音楽専攻の学生や音楽愛好家が、古典音楽のみにとどまらず表現の幅を広げ洋楽との共演を可能にするためにも、三線奏者の創造的な共演領域を拡大するための共通の記譜である「五線譜読譜」の促進とメソッドの編纂をめざす。

(2) 西洋音楽の近現代作品の読譜と音楽解釈を促進させるメソッドの編纂をめざす。

(3) これらを指針として、琉球楽器、西洋楽器とのアンサンブル作品、それに直結する学習練習曲の創作と、大学内外での演奏によって実証を行い、最終的に録音成果物として広く社会へ公開する。

3. 研究の方法

研究代表者近藤春恵は作曲と音楽基礎教育の立場から、研究分担者岡田光樹と山内昌也は弦楽奏者・三線奏者の立場から、それぞれの分野に沿った方向での研究、情報収集を行った。要点は以下のとおりである。

(1) 平成29~31年度、本研究分野での専門実技・音楽理論・基礎能力教育の調査の為に「アジアの管絃の現在」(京都市立芸術大学音楽学部)における3回にわたるシンポジウム、コンサートに参加出品し、情報収集を行った。(近藤)

(2) 平成29年度、伝統楽器の現代アンサンブル作品、洋楽伝統楽器の現代独奏作品の記

譜法・学習法等と音楽的位置づけを検証する為、「楊琴・笛子ワークショップ」(7月、一般社団法人日本作曲家協議会主催、東京芸術劇場)への参加、「現代ギター作品レクチャーコンサート」(9月、沖縄県立芸術大学大合奏室)の開催により情報収集を行った。(近藤)

(3)平成30年度、西洋音楽以外の領域での演奏教育とその実践例を調査収集の為、伝統楽器との現代作品に精通する作曲家中村典子京都市立芸術大学准教授及びフルート奏者 Camilla Hoitenga 氏による「レクチャー演奏会」(6月、京都市立芸術大学大学会館)に参加出品し、現代音楽と伝統楽器による創作曲の実践と検証作業を行った。

(4)平成29~令和元年前期までの沖縄県立芸術大学音楽学部における教育実践で、音楽基礎科目における創作の導入とその効用について検証した。(沖縄県立芸術大学「教職課程年報 vol.5」令和2年3月)(近藤)

(5)平成29~令和元年度、琉球古典音楽の伝統発声法と演奏技法の立場から講演を行い、三線学習者の為の古典唱本の五線譜化と口語訳をまとめた。(沖縄県立芸術大学音楽学部「唱本『執心鐘入』」令和2年3月)(山内)

(6)平成29~令和元年度、(1)~(5)の総括として、三線、ヴァイオリンによる古今東西の創作・編曲作品のプログラムの企画研究と演奏検証を行った。(CDブック「音楽表現を伴う総合的な教育方法と琉球楽器、西洋楽器による創作」令和2年3月)(岡田・山内・近藤)

4. 研究成果

本研究成果は「演奏録音物」「創作作品の作曲」「記譜法の編纂」の三分野からなっている。

(1)平成29年から令和元年度にかけての本研究の調査、情報収集を踏まえ、最終年度の令和元年度に研究成果録音のCDブックを制作した。その要点は以下のとおりである。

琉球王朝時代から現代の沖縄に至る、各時代の社会構造や生活様式を色濃く反映した琉球(沖縄)音楽を主題に、楽曲選曲は琉球(沖縄)及び西洋音楽のいずれかにルーツを持ち、その独自性をもとに他方とコラボレーションする形をとる。

②二つの異なる音楽様式を共同させるため、原則として五線譜による表記を採用し(琉球古典音楽の三線部分を除く)三線パートは、伝統的記譜法 工工四譜をも併記した。

これらを踏まえ以下の4つのカテゴリーに分類し構成されている。

- ・古典編曲：琉球王朝時代の音楽様式である古典音楽をもとにした二重奏。
- ・民謡編曲：19世紀以降の沖縄民謡の旋律を用いた編曲。
- ・クラシック編曲：17世紀以降の西洋音楽での古典音楽の編曲。
- ・現代作品：平成30年までの初演作品を中心に「琉球・沖縄音楽の伝統素材による」「伝統的素材によらず象徴的抽象的な概念から琉球音楽を想起させる」「同じ弦楽器で同音域であ

り異質な音質で独自の音楽語法による」等多彩な作品群から構成。

(2)「Moh-Ashibi」, 学習者の為のアンサンブル作品としての「Moh-Ashibi - 三線と弦楽オーケストラの為の」「Mabui フルート二重奏の為の」「Baccanale 三線、弦楽の為の」の作曲を近藤が行い、岡田、山内が前者2作品の実証の為公開演奏を行った。

三線、ヴァイオリンの二重奏版スコアは、琉球古典音楽の「工工四譜」を山内昌也が、弦楽のボーイング等の奏法表記を岡田光樹がそれぞれ校閲し楽譜制作した。

②これらの公開演奏を行った。

(3)三線古典曲の五線譜化として、組踊「執心鐘入」の唱本を学習者用に五線記譜に変換し、加え口語訳の台本を添付した曲集「組踊『唱本』」を編纂した。

(4)以上の成果物を音楽関係機関に配布し、本学の教材として令和2年度から音楽学部授業科目で使用する。

主な参考文献：

①三木稔著「日本楽器法」(音楽之友社 1998年)

「日本の伝統文化を生かした音楽の指導」(廣済堂出版 2012年)

湯浅譲二著「未聴の宇宙、作曲家の冒険」(春秋社 2008年)

金井喜久子著「琉球の民謡」(音楽之友社 1954 - 2006年復刻版)

保坂幸博著「日本の自然崇拜、西洋のアニミズム」(新評論社 2005年)

岩宮眞一郎著「音のデザイン 感性に訴える音をつくる」(九州大学出版会 2007年)

小島律子監修「日本の伝統音楽の授業をデザインする」(暁教育図書 2008年)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 山内昌也
2. 発表標題 「工工四譜の記譜変換について」
3. 学会等名 京都大学（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤春恵
2. 発表標題 《Madder Fantasy》
3. 学会等名 日本作曲家協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤春恵
2. 発表標題 近藤春恵作曲《白と黒のカチャーシー》
3. 学会等名 日本作曲家協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田光樹、山内昌也
2. 発表標題 近藤春恵作曲《Moh-Ashibi ヴァイオリン、三線の為の》
3. 学会等名 日本作曲家協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山内昌也
2. 発表標題 「琉球古典音楽と琉球古典舞踊による奉納」
3. 学会等名 国際現代音楽祭「アジアの管絃音楽～祈りの京都」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤春恵、山内昌也
2. 発表標題 近藤春恵作曲《Moh-Ashibi ー三線、弦楽オーケストラの為の》初演
3. 学会等名 国際現代音楽祭「アジアの管絃の現在2019 - Les Jeux d' eaux」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山内昌也
2. 発表標題 「琉球古典音楽について」
3. 学会等名 日本発声学会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤春恵
2. 発表標題 琉球楽器、西洋楽器による創作作品
3. 学会等名 日本表現学会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 近藤春恵
2. 発表標題 琉球楽器と弦楽アンサンブルによる試み
3. 学会等名 Puente Festival and Conference (Chile) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 山内昌也
2. 発表標題 琉球古典音楽"溪の響"
3. 学会等名 京都大学 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤 春恵
2. 発表標題 Moh-Ashibi
3. 学会等名 日本作曲家協議会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 近藤春恵、菅野由弘、上明子他24名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 カワイ出版	5. 総ページ数 44ページ
3. 書名 27人の作曲家によるピアノ作品集	

1. 著者名 近藤春恵他4名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 沖縄県立芸術大学	5. 総ページ数 110ページ
3. 書名 沖縄県立芸術大学教職課程年報vol.5	

1. 著者名 山内昌也、阿嘉修他5名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 沖縄県立芸術大学	5. 総ページ数 30ページ
3. 書名 組踊『執心鐘入』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

録音成果物の配布広報によりMelbourne Composers' League及びChile Puente Festival and Conferenceからの講演招待を得ることが出来た。(令和2年11月開催予定)本研究が東アジアにとどまらず、環太平洋文化圏の伝統楽器・洋楽器双方の演奏学習者にとって伝統楽器を含む編成による創作作品の可能性と展望を広げられるよう更に研究を敷衍させたい。

本研究の東西弦楽器による現代作品と教育方法に、中国伝統楽器における現状の調査が必要な為、香港大学陳錦標教授のもと調査を予定していたが、令和元年以降の当地の政情不安で不可能となった。この分野での研究は、今後更なる可能性があり継続させたいと考える。

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 光樹 (Okada Mitsuki) (10336977)	沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授 (28001)	

